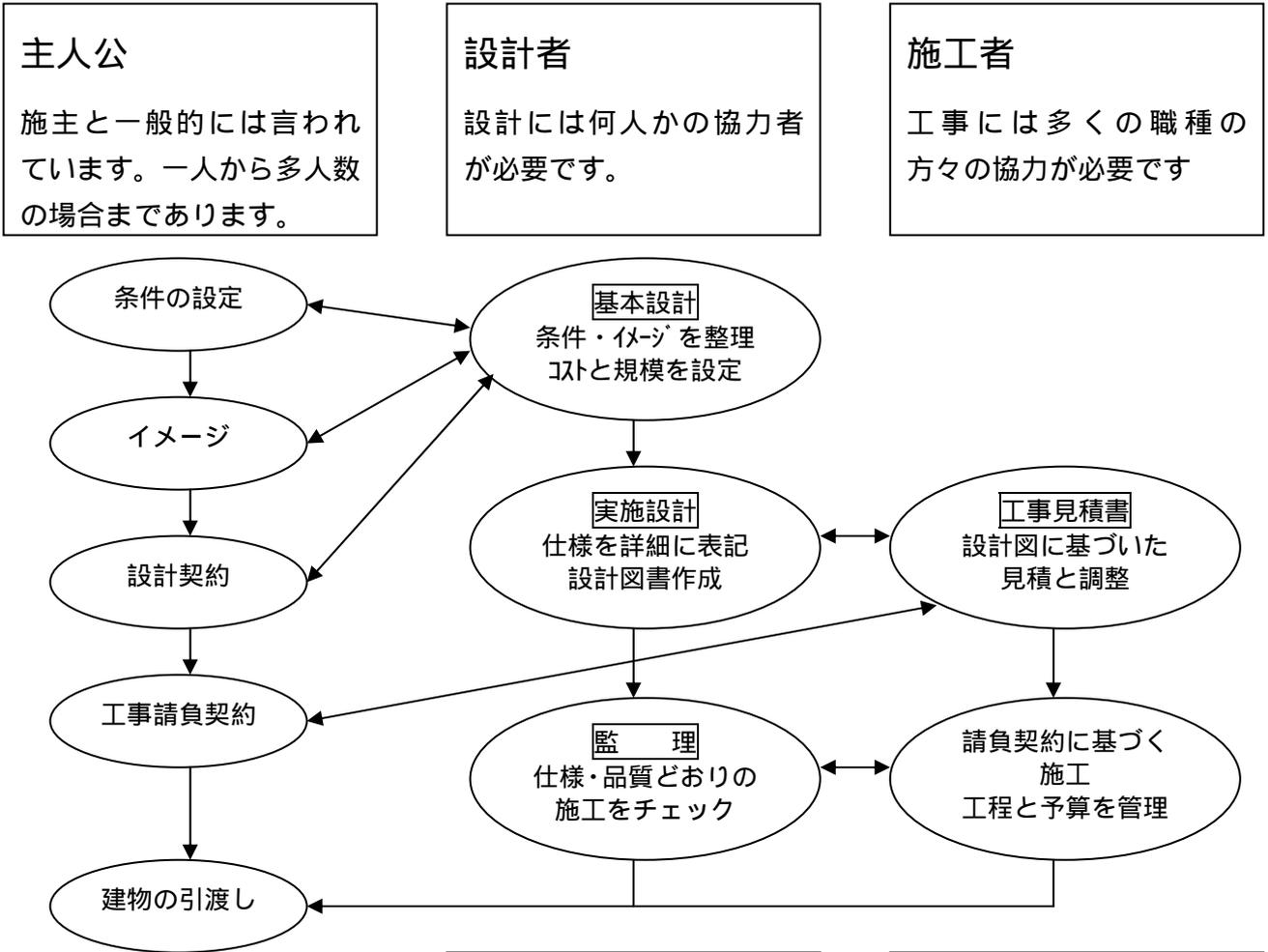


# 施主と設計者・施工者の関係を表す図

M&K 建築事務所（有）作成



**施主のまとめる内容**  
 必要な条件を設定する

- ・ 予算
- ・ 土地
- ・ 予定
- ・ その他の条件を整理
- ・ 具体的なイメージを持つ
- ・ 価値観を問い直す
- ・ 夫婦のことを考える
- ・ 子供のことを考える
- ・ 暮らし方を考える
- ・ 将来を考える
- ・ 相談して考える
- ・ 家族で相談する
- ・ 友人に相談する
- ・ 専門家に相談する

**設計の組織**

建築（意匠）設計

- 構造設計
- 電気設計
- 給排・空調設計
- 現場監理
- インテリア・家具
- 造園・ガーデニング
- 製造メーカー

- 不動産鑑定士
- 司法書士
- 税理士
- ファイナンシャルプランナー

**施工の組織**

ゼネコン  
 工務店  
 大工

工程と予算  
 管理

工種別区分（職種）一部

- 土工
- とび
- 型枠大工
- 鉄筋工
- 大工
- 外装工
- 内装工
- 建具工
- 屋根工
- 電気工
- 配管工
- その他設備工

外構工事  
 植栽工事

## 設計者の役割

- ・ 施主の立場に立って、建築の専門家として助言し、契約によって施主の代理として働きます。
- ・ 上記「施主のまとめる内容」を共に考え助言しながら、あなた方の Only One を組み立てます。
- ・ 施主の要望と要望から生まれる提案を盛り込みながら、設計図（仕様書）をまとめます。
- ・ 建築確認申請等の建築物を建設する際に必要な法的申請を施主の代理で行います。
- ・ 施主が工事施工業者と交わす工事請負契約に第3者として関わり、施工者に設計図の内容を見積って頂き、予算に合った内容で施工できる施工者選定の業務を代行します。
- ・ 設計図の仕様に沿って施工され品質を保っているか施工監理をします。工種別毎に仕様の確認と工事完了状況の確認。未確定の仕様を確定したり、施主の変更要望を調整したりします。また、法的な中間検査・完了検査の立会いと、建物引渡し前の竣工検査を実施します。

設計者は施主の代理として、施主の要望を具体的な形にする為に、打ち合わせばかりでなく、イメージを伝達するためのパースや模型を作成し、要望と提案の正確な伝達と出来上りを提供する為に、設計図書（設計図）を作成します。細部にわたり仕様や寸法を表示し、手順や工法品質を確保できるように表記します。設計図書は多くの協力者との共同で作られています。組織のコントロールと関係者をコーディネートする役目も担っています。

## 家族や地域のことを考える

- ・ 自分や自分達家族は家庭の中で或は地域の中で互いに責任を持って関わり合って生きている訳ですから、成功或は失敗といった結果のみを重視するのではなく、対話して（コミュニケーション）意見をまとめていく過程（プロセス）を大切に、臨機応変な柔軟な対応と世界に通じる価値観の育成を考えなくてはならないのではないのでしょうか。そうやって養われた価値観は地域の歴史や地産のものから新たな産業や生活様式を生みやがて文化や伝統に繋がるでしょう。（大きな話になってしまいました。）
- ・ 住宅は本来家族のもので、公共建築は地域のものであるはずなのに、現在の住宅や公共建築を考えると、家族や地域の人々の意識とかなりずれを生じているようです。最大の原因は対話（コミュニケーション）と過程（プロセス）が抜けているからでしょう。
- ・ 設計という行為は対話（コミュニケーション）であり、建築という行為は過程（プロセス）です。住宅と住み手（家族）、公共建築と住民（地域）をつなぐ潤滑油のような役割を設計者（建築家）が担っていくこととなります。

## 建築家グループ A5 の考え方

建築家グループ A5 は、**建築（意匠）設計**を専門職として、設計組織をまとめています。お互いに協力し合い、勉強会や建築設計を進めています。情報を開示しながら、施主の要望を価値観や暮らし方を参考にさせて頂きながら整理して、提案（要望の具現化）させて頂いています。

私たちの設計思想の底流にはエコロジーというものの考え方があります。自然との共生と自然エネルギーの有効活用、自然素材の利用等々、エコロジー的志向に基づいたものですが、それと同様物を大事にしたものづくりも推進しています。再利用やリサイクル可能なづくり方も提案しています。それから、参加と共生による知識や知恵の伝達・伝承も進めています。今に役立つ住まい方・暮らし方の知恵の掘り起こしや継承に応用。施主の施工への参加あるいは、発注にもチャレンジしていただいています。また、異業種である他土業の方と連携して、建築づくり・環境づくりに役立つネットワークも創っています。戸建て住宅を考えている人の為のライフプラン作りや、同じ考え方の人たちが集まって住む小さな地域づくりの事業性の検討・計画・実施なども可能です。

公共建築物が一部の方々の意思のみで計画され決定されていくことへの提言として、住民参加のものづくりを提案しています。勉強会の延長としてのワークショップの開催による、参加者の意識づくりや意見の抽出・イメージづくりを積極的にしましょう。参加していただくことで意識も高まり、他人任せのような公共物が身近なものとなり、必要性や可能性の検討、用途や規模の検討が自分達のものとしての意識改革にもつながります。利用度や維持管理あるいは参加・運営といった造られた後の責任についても意識することで、街の資産として次の世代に継承できる真の公共物になるのではないのでしょうか。

上記のことは、暮らし方を意識し積極的に自分達の住まいや住まい方を考えている人たちが、より多くなることで相乗効果として表れて来る事と思っています。我々のグループはその方々のお手伝いを少しでも出来ればと結成し、参加者を求めています。